

普及活動情勢報告（平成29年11月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

ユリ栽培、本格化 ～ユリ現地検討会～



お互いの生育状況を
確認し合う生産者

10月26日、春野地域でユリの現地検討会を実施し、4戸の花き農家が参加しました。JAは各市場における情勢を、普及所からは温度や湿度といった環境データの取りまとめを提示しました。

台風や長雨が続いた後の検討会であり、参加者からは「例年にならない悪天候で植物に障害が出てしまった」、「油断せず栽培していきたい」と話していました。

台風による直接的な被害はありませんでしたが、年末の需要期の大切な時期に入ってきましたので、関係機関と連携して生産者が安定した栽培ができるよう支援していきます。

さらなる収量アップを目指して ～環境制御技術実証ほ～



炭酸ガス施用の効果を調査

JA高知春野で収量アップを目的として、環境制御機器を使用したキュウリの実証ほを設けています。炭酸ガスの施用を11月1日より開始し、日中のハウス内の炭酸ガス濃度を500ppmに維持しています。また、今年は日射センサーを用いて日射量に応じた灌水を行い、さらなる収量アップを目指しています。普及所は、実証ほで生育・環境調査を行い、そのデータを現地検討会、巡回指導で活用して、地域全体の収量アップを目指して行きます。

県育成品種の振興を ～水稻新品種「高育76号」説明会～



来年作ってみようかなあ～

11月2日、ドリーマーベイシャトーにて県育成の水稻新品種「高育76号」の説明会を実施し、高知市内の水稻農家34名が参加しました。農業技術センターおよび普及所から今年度実施した大規模実証試験の結果を、全農からは食味試験の結果について、高知県環境農業推進課からは今後の販売戦略について説明し、来年の栽培を呼びかけました。参加した農家からは、「品質が良いことはいいが、作ってみたいと思うには特徴が弱い」などの意見もありました。

品種特性について十分把握できていない部分もあるため、今後も普及所では関係機関と協力し、この品種に適した栽培技術を検討し、高知市の米産地の振興を進めていきます。

珍しい伝統野菜がいっぱい！ ～チームマキノ商談会～



伝統野菜の説明をする普及員

11月8日、南国市にある丸三株式会社で高知の逸品の商談会が開催され、チームマキノ（事務局；普及所）から、潮江菜、山内家伝来ダイコン、伝統野菜白ネギをチームマキノ代表やメンバーの集落営農組織とともに出品しました。当日は雨天になり午前中は客足も鈍いものとなりましたが、午後に県内のホテル業の仕入れの方などと商談をすることができ、普及所も商談の中で栽培関係の説明等を行いました。今回のような地道な販促活動が、販路開拓につながると考え、今後も支援を続けていきます。

今年のユズ果実の状態は？ ～ユズ青果出荷検討会～



冬至用に出荷できるか検討中

11月11日、高知市土佐山で土佐山ユズ生産組合が冬至用ユズ果実の目慣らし会を実施し、生産者やJA職員ら21名が参加しました。冬至用果実の価格は、酢用の加工原料より約3倍高く、高い収益性があります。各生産者が持ち寄った果実と等級別チャート図を見比べながら、キズ数や病虫害被害面積を確認し、この果実はこのクラスに分類できるなど、熱心に検討していました。

普及所では、10月中旬に黒点病や傷果などの発生、同月下旬の台風による被害を調査し、冬至用果実の出荷予測を行いました。今後も、このような会に参加し、助言等を行い、土佐山ユズ生産組合を支援していきます。